

1-2. 北九州市の都市構造の現状等

■ 推計にあたっての前提条件等

【将来人口推計の方法】

推計年	平成52年（2040年）
推計地区単位	町丁・字別
基準人口	平成22年国勢調査（小地域集計，年齢（5歳階級））
推計手法	<p>コーホート要因法</p> <p>・推計に用いる仮定値(生残率・純移動率・子ども女性比・0-4歳性比)は、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』の行政区別仮定値を用い、行政区内の町は同一仮定値とし、推計</p>

【地区別の人口等の算出対象等について】

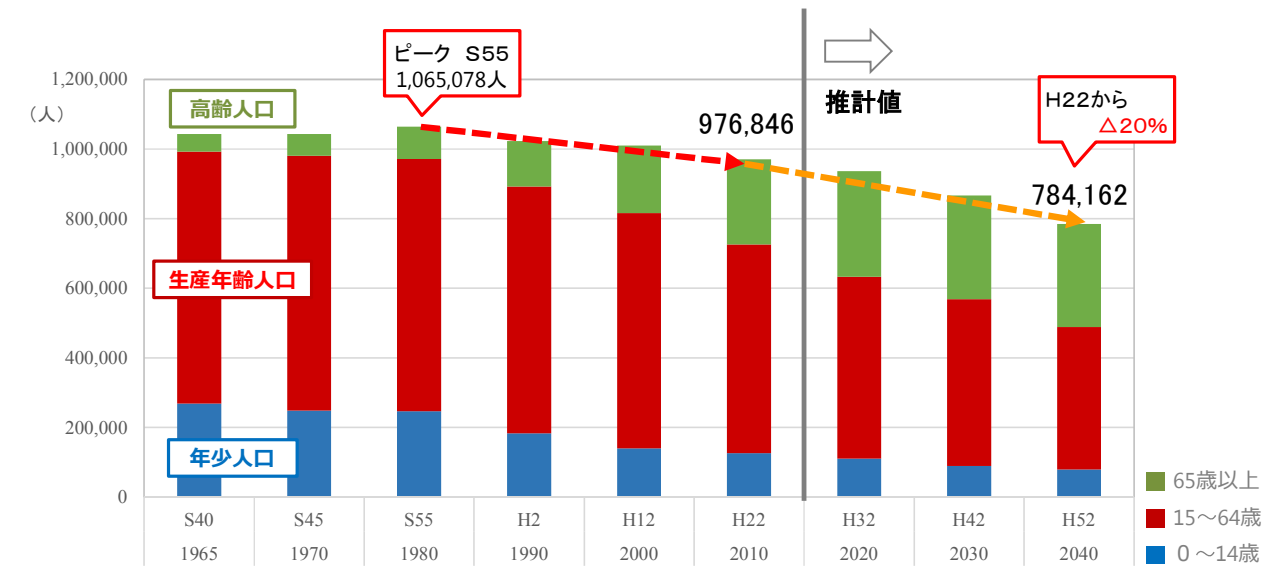
- ・地区別の人口の動向等については、算出の対象を市街化区域（工業専用地域・臨港地区等を除く）としている。
- ・地区別の人口密度については、道路や公園などを除く可住地を分母として算出している。

1-2-1. 人口

(1) 人口の推移・推計

- 市の人口は、H22年の98万人から、H52年に78万人になると予測
- 高齢化率は25%から38%に増加、生産年齢人口比率は61%から52%に低下

■北九州市の人口推移



■年齢別比率

	1965 S40	1970 S45	1980 S55	1990 H2	2000 H12	2010 H22	2020 H32	2030 H42	2040 H52
0～14歳	26%	24%	23%	18%	14%	13%	12%	10%	10%
15～64歳	69%	70%	68%	69%	67%	61%	56%	55%	52%
65歳以上	5%	6%	9%	13%	19%	25%	32%	34%	38%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

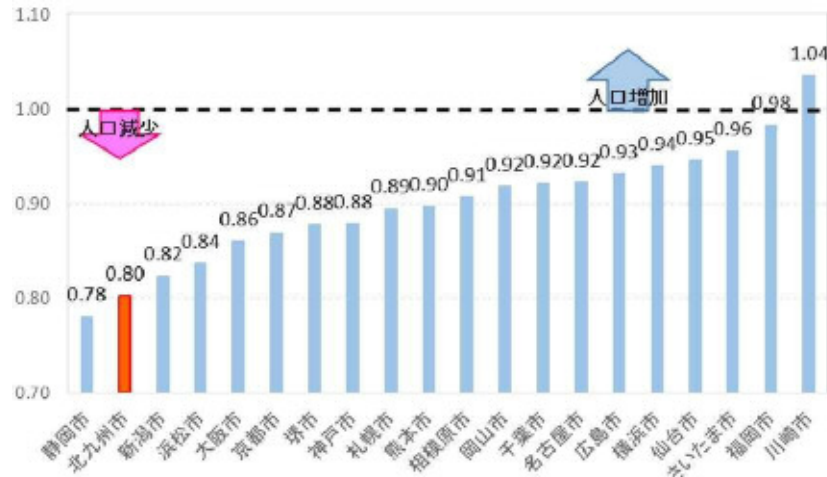
出典：総務省「国勢調査(S40～H22)」

国立社会保障・人口問題研究所(日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)) (H32～52)

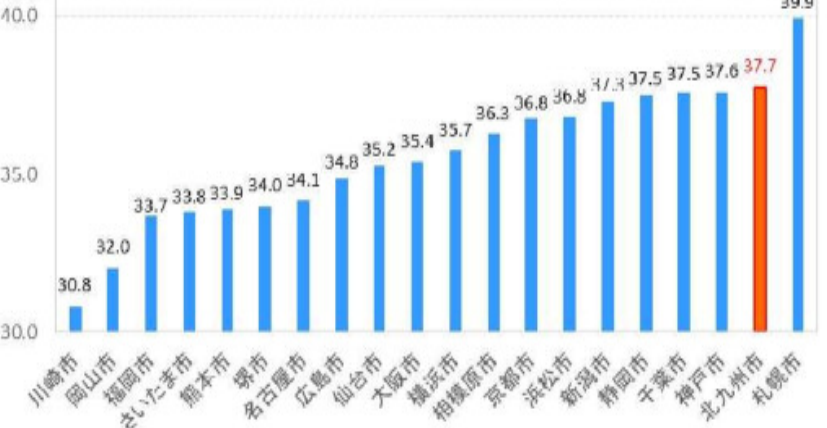
(2) 人口増減率等の推計（指定都市比較）

○ 北九州市は、H52年には、人口減少の割合、高齢化率は、指定都市の中で 2番目に高く、生産年齢人口比率は、最も低くなると予測

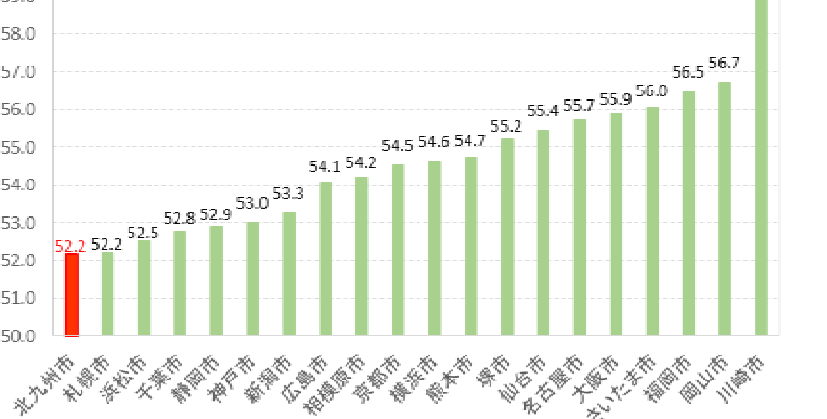
■人口増減率(H22→H52) (指定都市比較)



■H52の高齢化率(指定都市比較)



■H52の生産年齢人口比率(指定都市比較)



出典: 総務省「平成 22 年国勢調査」

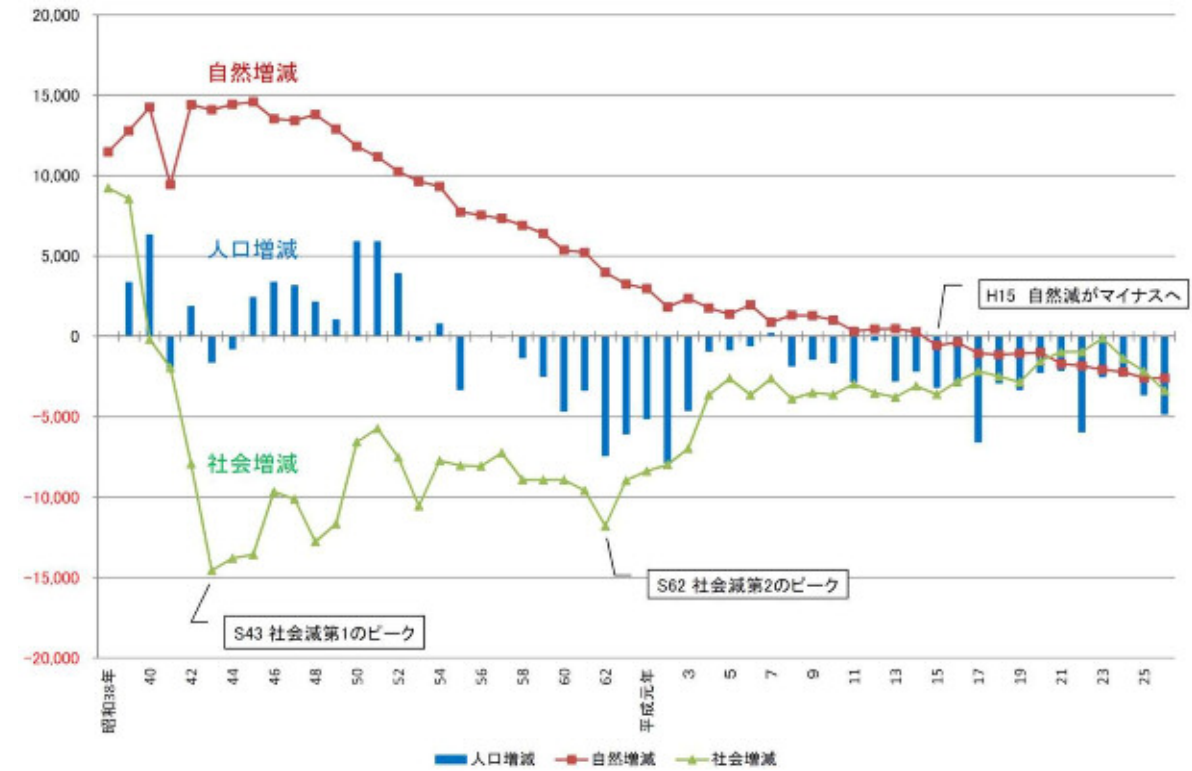
国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)』(H52)

(3) 人口増減率等の推計（指定都市比較）

人口増減について、内訳をみると

- 自然動態は、H15年以降マイナスに転じ、今後継続すると推測される
- 社会動態は、過去5年間（H22～26年）の年平均で約 1,500人程度の減少

■自然動態と社会動態の推移



出典: 北九州市「推計人口異動状況」

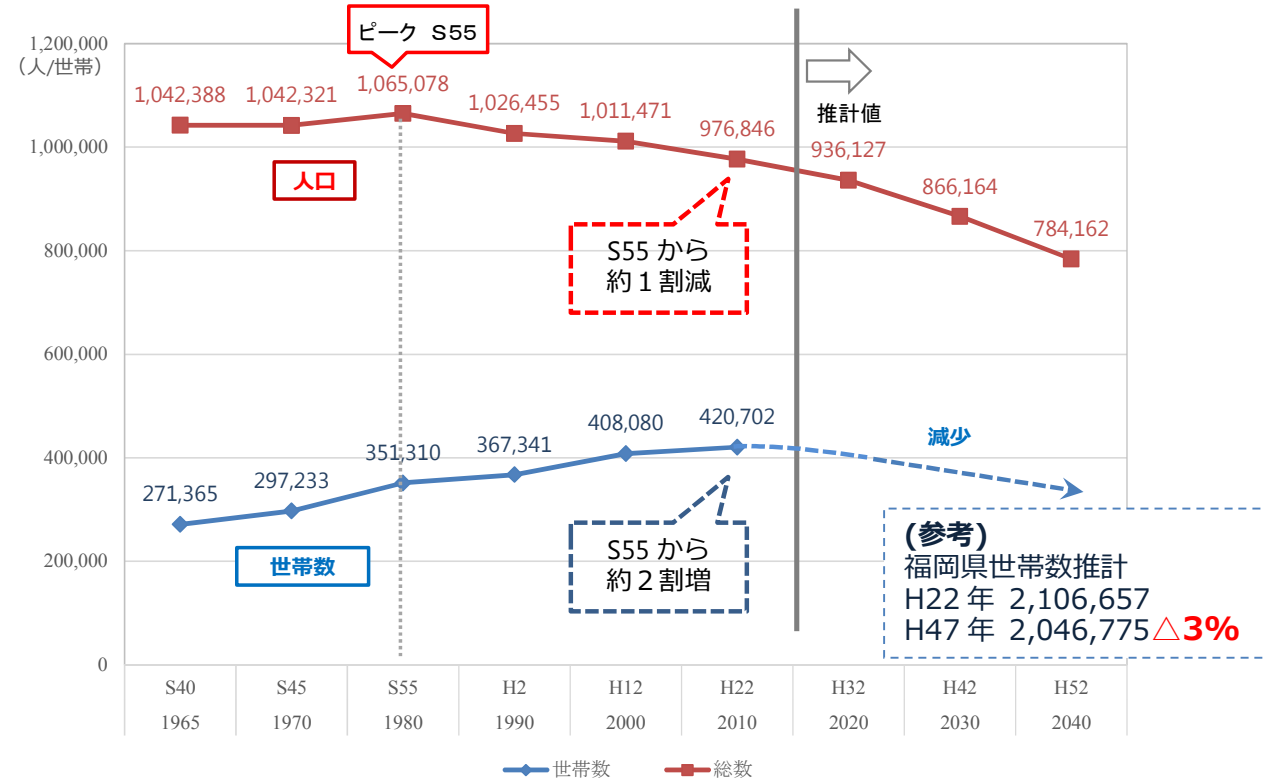
(4) 人口増減率等の推計（指定都市比較）

○ 北九州市は、H52年には、人口減少の割合、高齢化率は、指定都市の中で 2 番目に高く、生産年齢人口比率は、最も低くなると予測

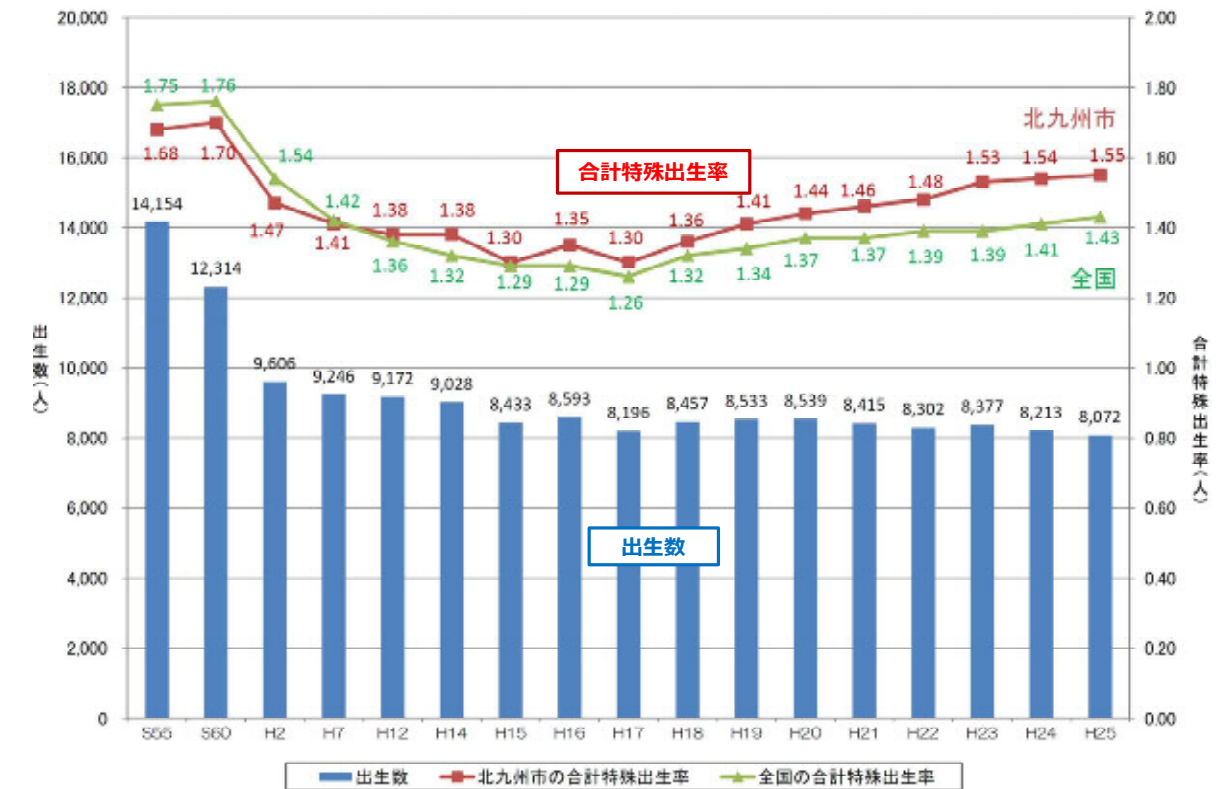
(5) 出生率・出生数の推移

○ 出生数は、H2年に1万人を割り込み、近年は8,000人台で推移
○ 合計特殊出生率は、H17年以降増加し、H25年は1.55人

■人口と世帯数の推移



■出生率・出生数の推移



出典：厚生労働省「人口動態調査」・北九州市は「北九州市衛生統計年報」

出典：総務省「国勢調査」(S40～H22)

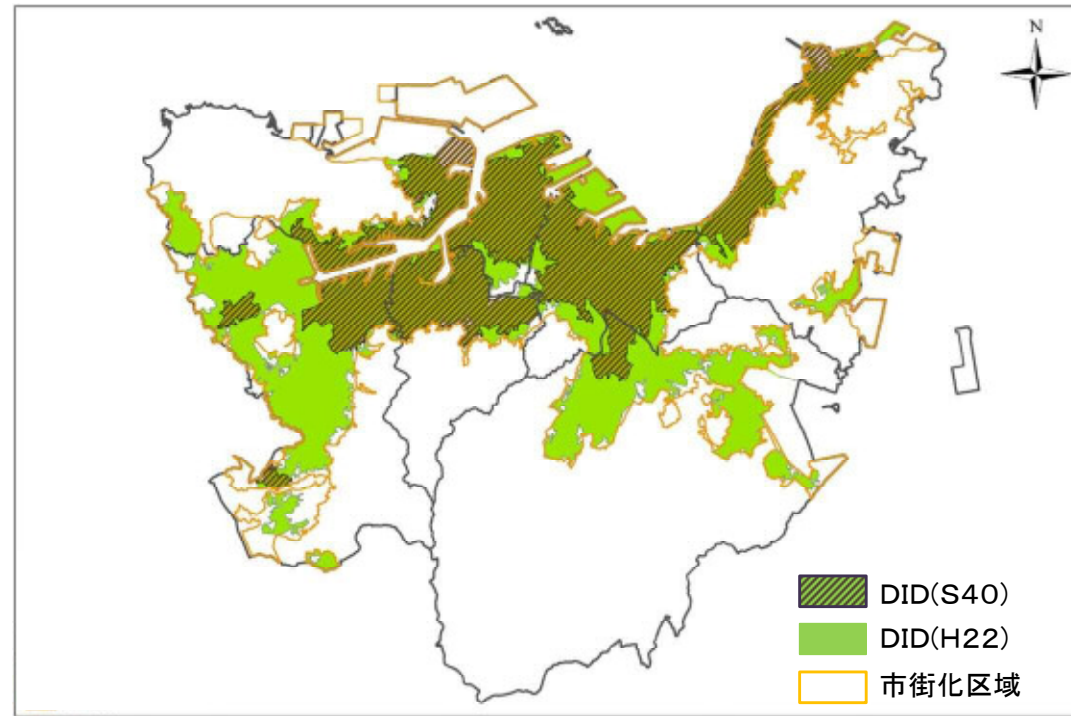
国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』(H32～52)

国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数将来推計(都道府県別推計)(平成26年4月推計)』(2035年)

(6) DID人口・区域の推移

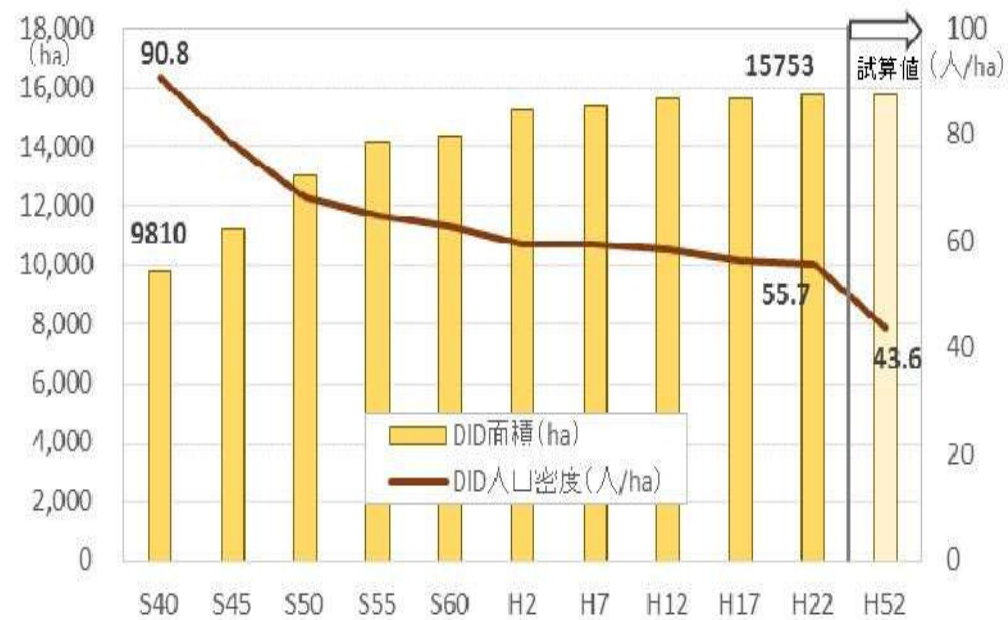
- 人口集中地区(DID)の面積は、S40年からH22年の間に、約1.6倍に拡大
- 一方で、人口減少に伴い、DID人口密度は約91人/haから約56人/haに低下
- 将来的には、さらにDID人口密度は低下すると予測

■DIDの変遷



出典:国土交通省「国土数値情報(DID人口集中地区)」をもとに北九州市にて作成

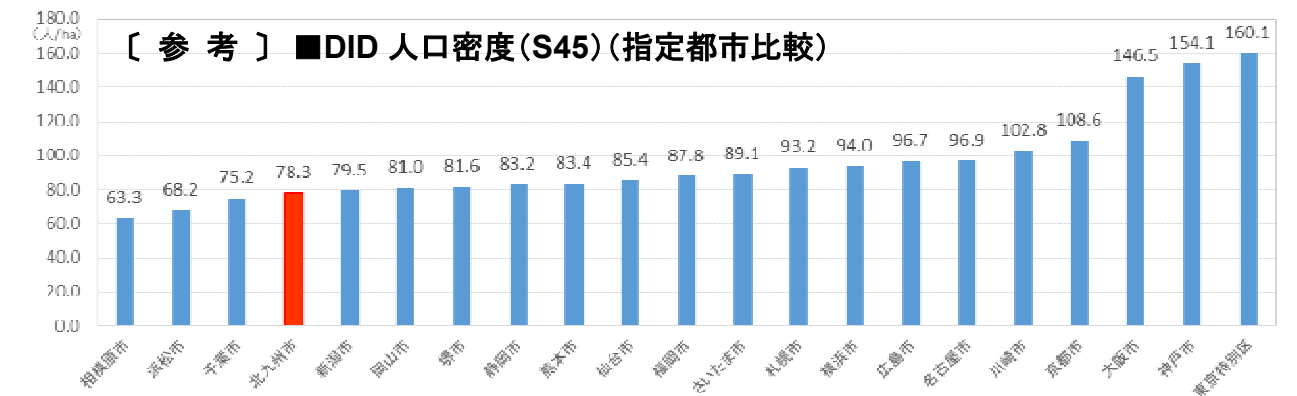
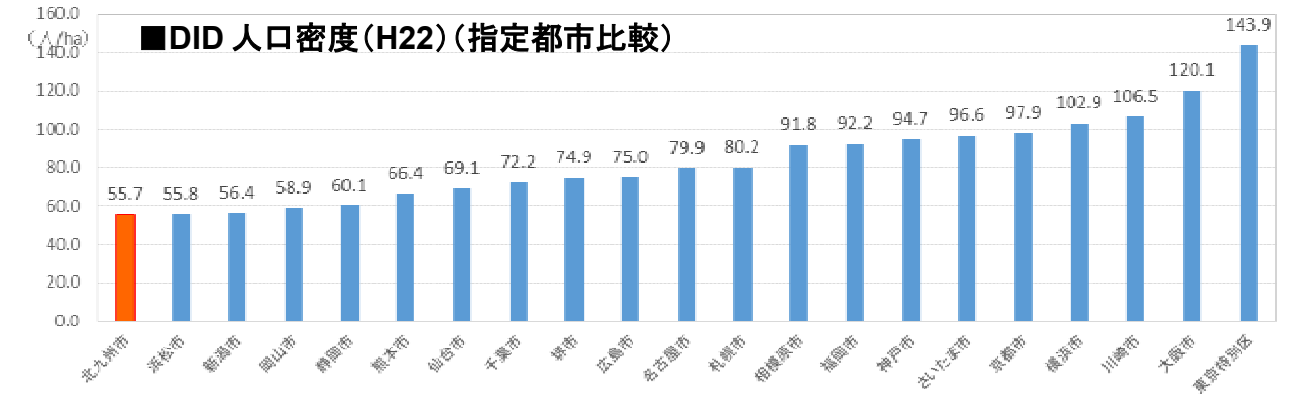
■DID面積・DID人口密度の推移



注)H52DID人口密度は、面積をH22DID面積がH52においても一定と仮定し、人口を国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」をもとに、北九州市にて試算

(7) DID人口密度(指定都市比較)

- 人口集中地区(DID)内の人口密度は、指定都市の中で低密度となっており、居住構造は他都市に比べ拡散している



※S45時点での指定都市は、横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市・北九州市の6都市であり、他の都市のDID人口・面積は、指定都市移行前の合併市町村の人口・面積を合計している。

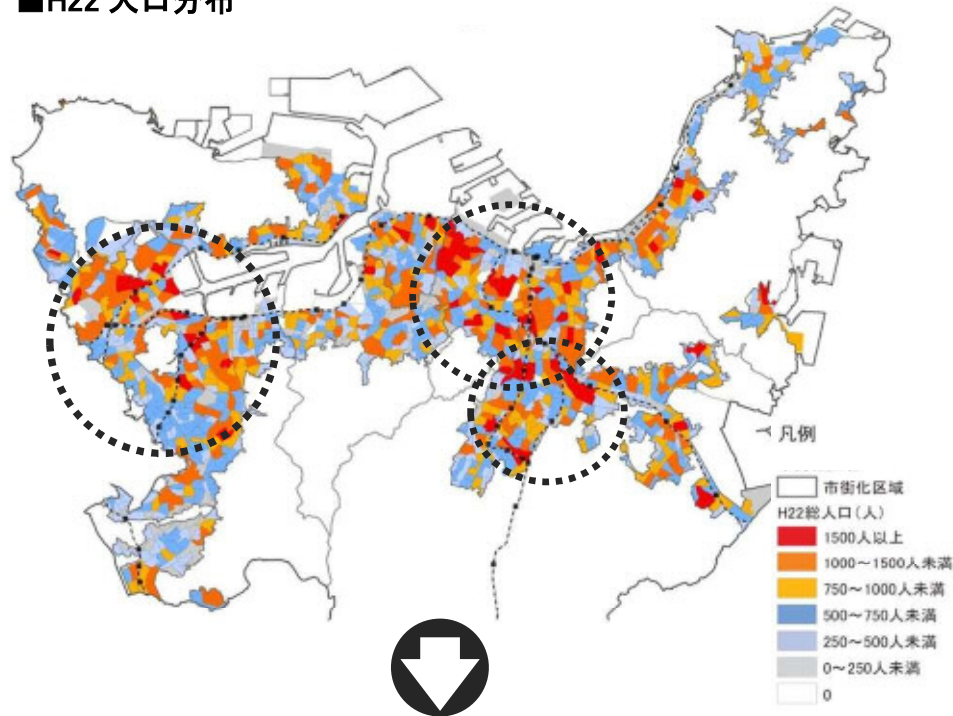
出典:総務省「昭和45年・平成22年国勢調査」

(8) 地区別の人口の動向

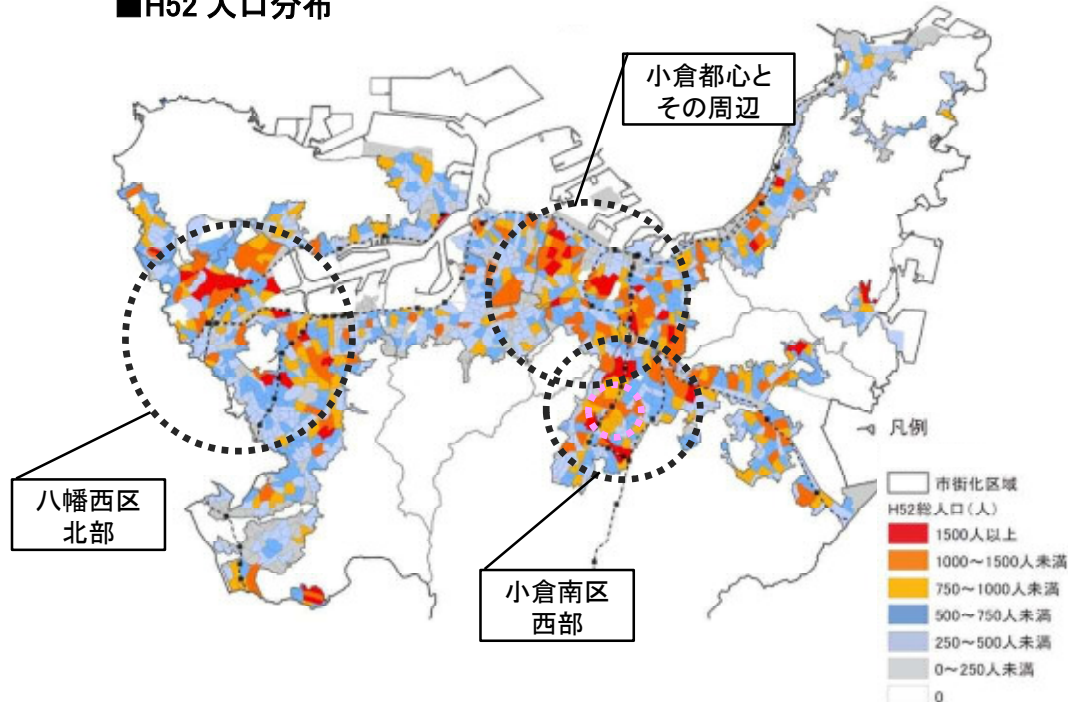
○ 将来人口を地区別に見ると、総人口が減少するなか、小倉都心とその周辺、八幡西区北部、小倉南区西部などでは一定の人口集積

○ 人口増減率を地区別にみると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などでは、人口減少率が高く、小倉南区西部、八幡西区北部などでは人口が増加

■H22 人口分布



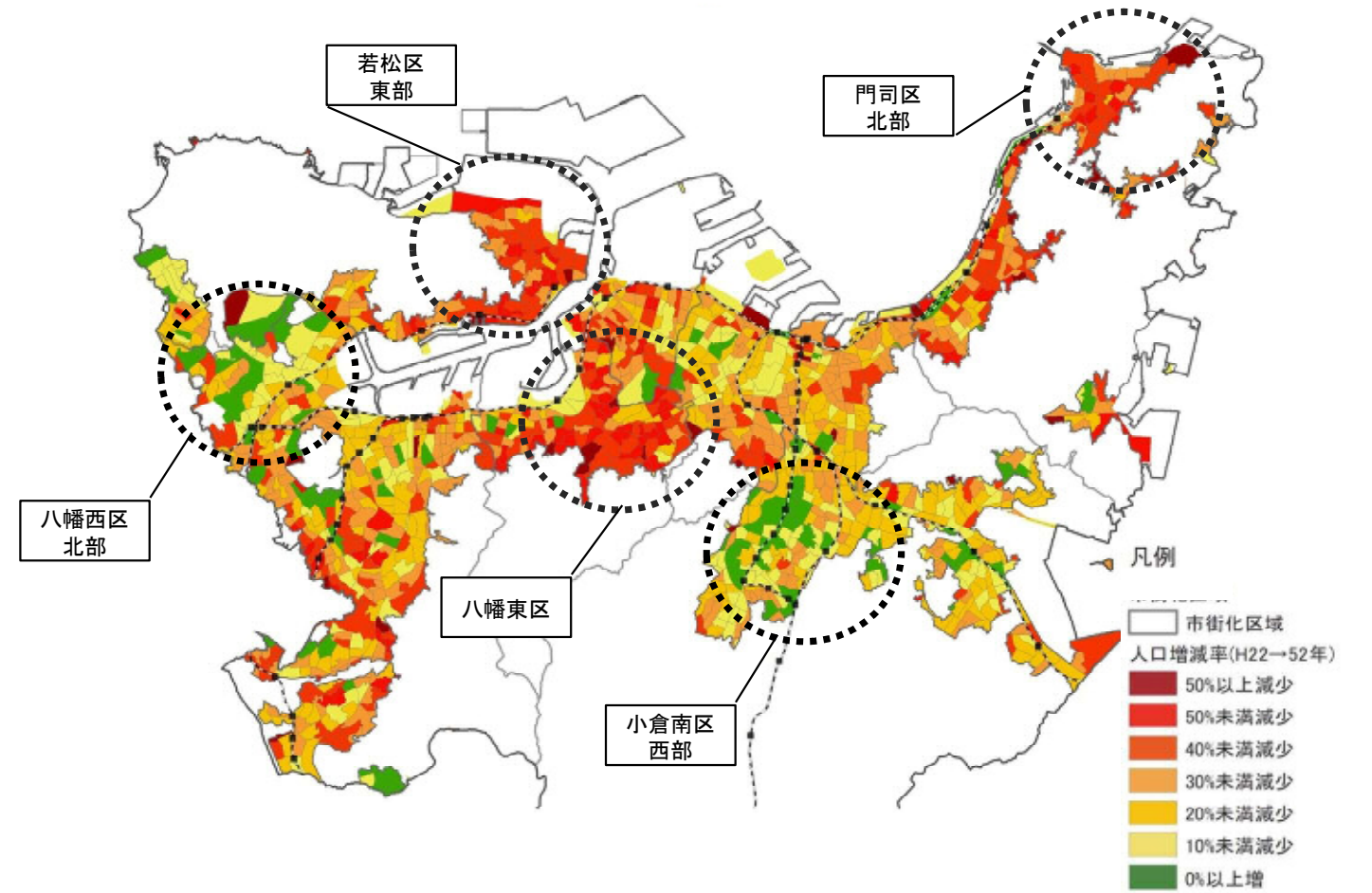
■H52 人口分布



注)平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

出典:総務省「平成22年国勢調査」をもとに北九州市にて作成

■人口増減(H22→H52)



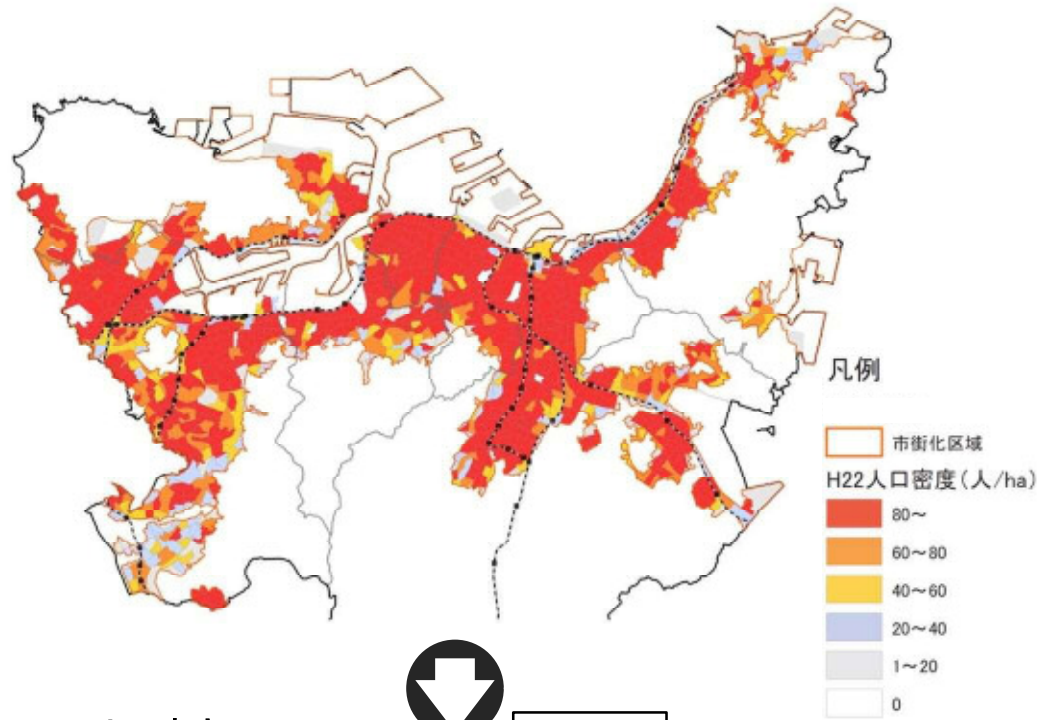
注)平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

(9) 地区別の人口密度の動向

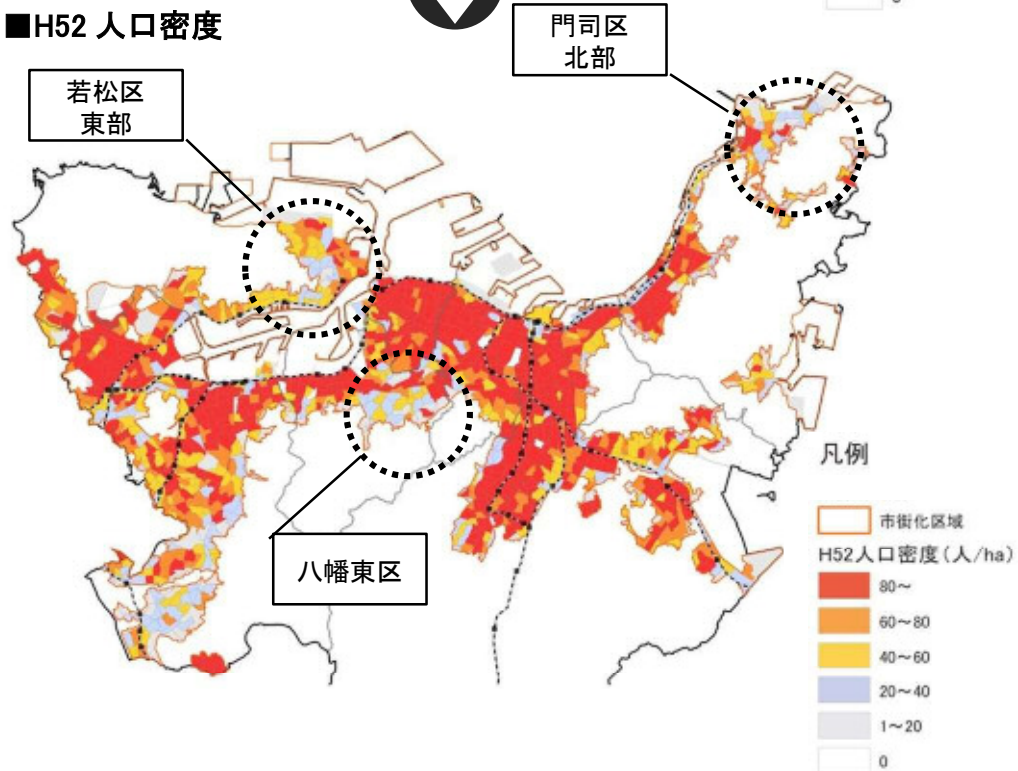
○ 人口密度を地区別に見ると、H52年には、八幡東区、若松区東部、門司区北部などで密度が大きく低下

○ 人口密度増減を地区別に見ると、JR戸畑駅周辺、JR門司駅周辺などの市街地中心部ほど密度の低下が大きく、小倉南区西部や八幡西区北部で密度が高くなる

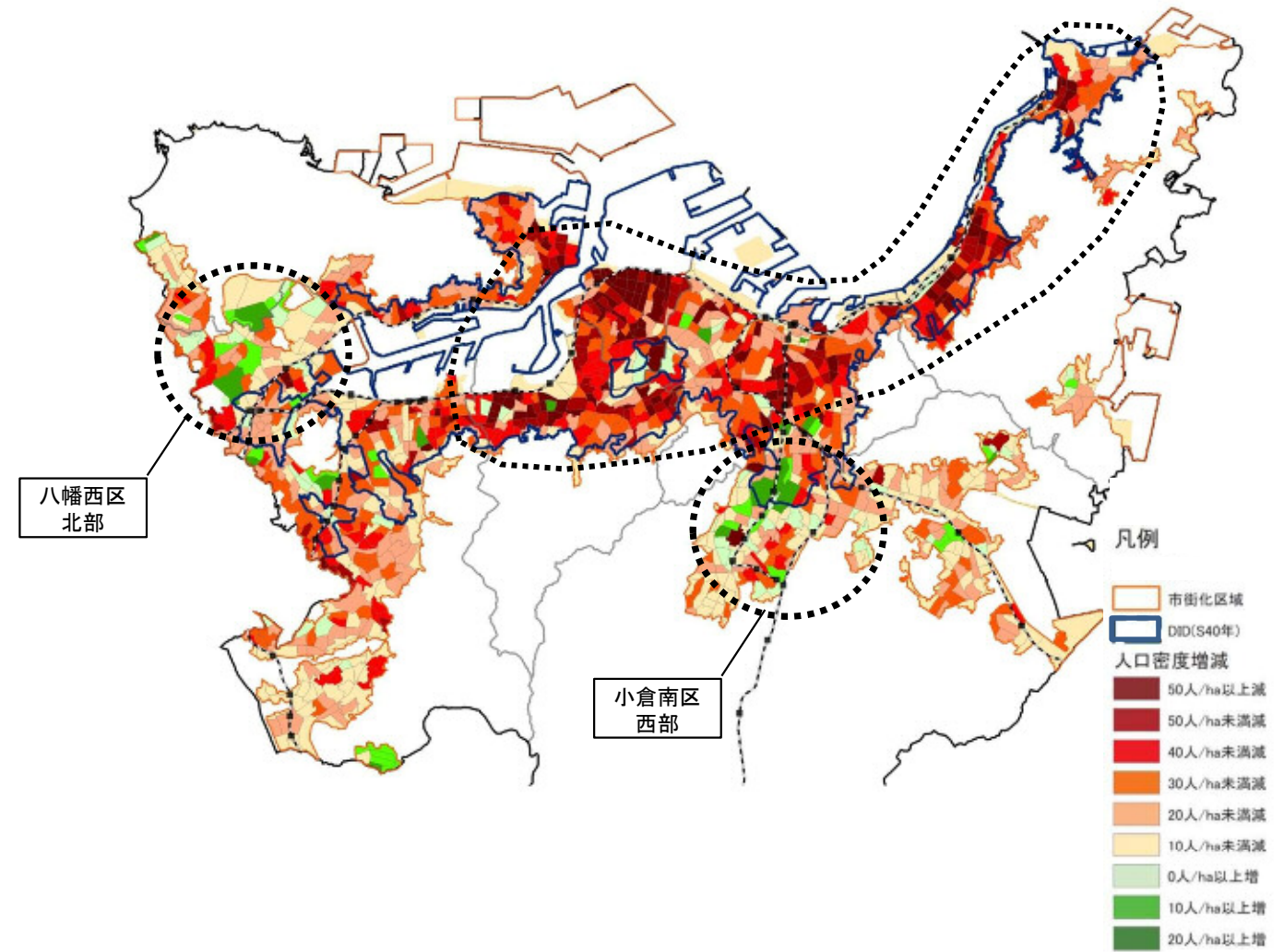
■H22 人口密度



■H52 人口密度



■人口密度増減(H22→H52)



注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

出典: 総務省「平成22年国勢調査」をもとに北九州市にて作成